オーディオ実験室収載

TruPhase の追加導入(2)
―XLR リベラメンテの導入―

１．はじめに

TruPhase の追加導入により EMT981 バランス出力の CD 再生時の位相反転に対応しますが、そのために EMT981 バランス出力用に XLR リベラメンテを導入しました。

２．TruPhase の追加導入の設置

EMT981 の場合、前報(1)では、SA11-S2 用の SAEC のバランスケーブルを仮に繋いで動作確認を行いましたが、XRL リベラメンテが入手できましたので、前報(1)で設置した TruPhase についてこれを引き出しケーブルとします。

また、TruPhase のヴォリュームにヴォリュームアキュライザーを使用したいところですが、とりあえず自作のイミテーションを使用してみます。

さらに、TruPhase のアンバランス入力端子に光城精工の RCA 端子用アースケーブルにより自作の仮想アースに接続します。

３．TruPhase の動作確認

CD 再生では、接続は TruPhase2 台を下記のように結線し、動作確認を行いました。

TruPhaseB 入力

Balance1 入力端子　 from EMT981（XLR リベラメンテ）
Balance2 入力端子　from SA11-S2（SAEC XLR ケーブル）
TruPhaseB 出力
Balance 出力端子　to TruPhase1（SAEC XLR ケーブル）
EMT981 による CD 再生（バランス接続）
EMT981→TruPhase B→TruPhase A→300B シングルアンプ
テスト用 CD は前報(1)と同様、下記を使用しました。
オペラアリア集
アンネ・ゾフィー・フォン・オッター（メゾソプラノ）
トレヴァー・ピノック指揮イングリッシュコンサート

バッハ　無伴奏ソナタ・パルティータ
カール・ズスケ（ヴァイオリン）

EMT981 による CD 再生では、次のようになりました。
今回入手した XLR リベラメンテはこれまでの製品から特別にチューニングを加えたものということです。
EMT981 の CD 再生を始めましたところ、前報(1)の動作確認でもそうでしたが、音量課題に対するヴォリュームの絞りの余裕がないので、300B アンプの L/R 入力ヴォリュームで適宜調整することとし、このアンプのヴォリュームに使用している 2 個

のヴォリュームアキュライザーを外し、常時入力ヴォリュームでの調整を容易にすることにしました。そして取り外したヴォリュームアキュライザー1 個は、TruPhaseB の上記の自作ヴォリュームと入れ替えました。もう一つのヴォリュームアキュライザーの使い道は別途検討します。

このような条件下で EMT981 の CD 再生を再開しました。
ARCHIV レーベル 1995 年録音のオッターでは、TruPhase B で位相反転させますと、広がり感が出過ぎて定位が曖昧になります。
ドイツシャルプラッテンレーベル 1983 年から 1987 年録音のズスケでは、TruPhase B で位相反転させますと、散漫な音が中央に凝縮し、定位がしっかりしてきます。
上記のように前報(1)と同様の結果が得られましたが、音質的には、前報(1)の SAEC のケーブルに比して、XLR リベラメンテとヴォリュームアキュライザーの効果により、本来の EMT981 のポテンシアルが引き出されてきました。
音質の詳細な検討と位相反転の効果については、さらに詳しい検討を継続します。

４．まとめ

TruPhase を追加導入し、TruPhase へのヴォリュームアキュライザーや仮想アース接続とともに、EMT981 の引き出しケーブルを XLR リベラメンテとする効果を認めました。

以上